

神聖なる師に魅了される瞬間

60年間近く敬虔で信心深い帰依者であった、タミルナードゥ州出身のラニ スップラマニラム女史（訳注：2012年12月1日逝去）が、バガヴァン ババ様のもとを訪れたのは、早くも1950年のことでした。現在85歳で（2008年4月時点）、バガヴァンは親しみを込めて彼女のことを「ラニ マー」と呼ばれていました。彼女の人生は、往年のきらめく体験の宝石箱でした。真摯な霊性求道者である彼女は、現在、プッタパルティに在住し、深い信念、洞察力、そして信仰心を持つ熱心な帰依者たちのために、彼女を高めた数々の思い出を分かち合ってください。これは彼女の素晴らしい回想録の第9部です。第1部～第8部を読まれる方は、下記をクリックして下さい。

[「ゴッドマザーに捧げる頌歌」](#)

[第1部](#)

[第2部](#)

[第3部](#)

[第4部](#)

[第5部](#)

[第6部](#)

[第7部](#)

[第8部](#)

ラニ マー女史へのインタビューより

第9部

危険と遭遇

1974年、私は姻戚を訪問するためにチェンナイに行きました。3日程彼らと一緒に滞在しました。バンガロールに帰宅する日の朝、私は息子に朝6時に迎えに来るように頼みました。できるだけ早く出発したかったからです。その日の前夜、息子は従兄と一緒にいて、夜遅くまで起きていました。しかしながら、彼は車で私を乗せるために急いで到着しました。出発前に、私は3歳になる孫のドゥルヴァを伴い、聖堂にお祈りに行きました。私は孫に善い習慣を教え込みたかったのです。

私たち二人（ラニ マーと孫のドゥルヴァ）は唱えました。

「トワメーヴァ マーター チャ ピター トワメーヴァ・・・

（おお主よ！ あなたは私たちの母、父・・・）」

そしてナマスカル（平伏して礼拝）を行いました。私たちはこうして車に乗り込みました。私の孫息子、娘の義理の母のラージャムと私が乗車していました。夫も私たち

と共に乗車していましたが、道中、夫はデリーに行く便に乗るために飛行場で車を降りました。



それは早朝のことで、路上は（障害物がなく視界は）はっきりとしていました。ごくわずかな乗り物にしか遭遇しませんでした。私たちがコラルに近づくにつれて、息子は運転中に眠気を催しました！ ところが私はヴィシュヌ サハスラ ナーマム（1008のヴィシュヌ神の御名）を唱えるのに夢中になっていました。その日まで数日間、唱え損じていたからです。そのため、私は息子が運転中、うたた寝していることに気づきませんでした。何の前触れもなく、私はけたたましい音を聞き、

車が大木に激突したことに気づきました。

ドアが飛び開きました。トランクの中には、息子が自分の勤務していた工場に運んでいた重い鋼鉄がいくつもありました。衝突の衝撃が原因で、それらの鋼鉄が後部座席を突き破り、私の背中を一撃しました。スワミのお写真とヴィブーティの入った私のバッグは、私の手元を離れて道路に飛び散りました。

大木には衝突せずに、道路から逸れて排水溝かあるいは峡谷に衝突することもできましたが、その場合は致命的な大惨事となっていたことでしょう！ 息子は足のつま先の傷以外に怪我はありませんでした！ 彼は狂乱状態でうろたえ、何が起こったのかわからず、混乱していました。息子はただ繰り返して言いました。「僕は何てことをしてしまったのか？」孫息子もまた無傷でしたが、意気消沈して震えて、何が起こったのか尋ね続けました。孫息子をなだめるのは大変なことでした。

しかしながら、私は重傷を負いました。前額部に深い傷を負い、鼻からひどい出血をして、身体内部の損傷、筋肉の断裂、歯は折れ、身体中を打撲し、背中も重い鋼鉄部分が一撃した影響で、激痛に苦しみました。私は真っ直ぐに立つことができず、激しく痛みました。ラージャム（娘の義理の母）は助手席から落ちて意識がありませんでした。私の息子は最悪の事態を恐れていました。ラージャムに生きている兆候が見られなかったからです。

思い出しますと、最初に私が息子に頼んだことは、私のハンドバッグからスワミのお写真とヴィブーティを取り出してもらうことでした。息子は車を降りて、財布と道路に散乱した中のものを拾い集めました。私は、息子、孫、ラージャム（娘の義理の母）と私自身にヴィブーティを塗りました。そしてラージャムを揺すって、ずっとスワミの導きを祈っていると、彼女は意識を取り戻しました。そのことについて今思い返しますと、

最大の奇跡は、事故の全過程を通して、私が完全に落ちていたことです。車は完全にグシャグシャに破壊されていましたが、これらすべてのことにも関わらず、スワミは私の息子を守って下さいましたので、息子は私たちの世話をすることができました。後になって、ラージャム（娘の義理の母）があご骨と歯の多発性骨折に耐えていたことが判りましたが、他は無傷でした。

私は誰か助けを送ってくださるようにスワミに祈りました。まもなく、大きなトラックが私たちに近づいてくるのが見えました。息子はまだショックを受けていました。しかしスワミの恩寵により、私は完全に落ちていて、そのトラックに手を振ることができました。私は運転手に最も近い医療センターに私たちを乗せて行ってくれるよう頼みました。運転手は同意しましたが、私たちがトラックに乗るために、階段をのぼることができないのではないかと心配しました。その瞬間、アンバサダー（インドの国産車種）の車が到着しました。彼らはティルパティー（寺院）での巡礼から帰るところでした。運転していた紳士が車を止めて、援助を申し出て下さいました。私は最も近い医療センターに連れて行ってくださるようお願いしました。その車の中は既に満席でしたが、紳士は車に乗っていた客人たち全員に降りるよう頼んでくださり、私たちを乗せて一番近い医療センターに連れて行って下さいました。

その時、私は息子に、バンガロールにいる娘と妹に連絡してこの事故のことを知らせ、何台かの車で医療センターに来て、バンガロールに戻るために私たちを運んでほしいとお願いするよう頼みました。またバンガロールの病院に私たちが入院できる手配をしてくれるように頼みました。息子は公衆電話ボックスを見つけて、彼女たちと連絡を取り、話しました。

そうこうしている内に、医療センターの医者がサイの帰依者であることが判りました！ その医者もまた、私たちの額にヴィブーティが塗られているのを見て、私たちがサイの帰依者なのかと尋ねてきました。しかしながら、私の外傷は外科医に縫ってもらいが必要があり、彼のところにはその傷に対処する設備がないので、私を治療することができないと言いました。その医者は単に応急処置ができるだけでした。しかし救助が到着するまで私たちは医療センターで休むことができる、と言いました。彼は私たちにそれ以上何もできないことを申し訳なく感じていました。私は彼に心配しないように告げ、なんとか痛みを耐えることができました。

私の義理の息子、娘、妹が、約 3 時間後にバンガロールから到着しました。私の妹の息子は医者をしており、バンガロールのセント マーサズ病院の病棟外科医でした。妹は私の目が黒目（目の周りの青あざ）になっているのを見ました。彼女は泣き始めました。妹の最初のコメントは、

「ディディ（お姉さん）！ あなたは生涯病人になるかもしれません！」

私はスワミが私の面倒をみてくださると言って妹をなだめました。私たちは車に乗り

込み、病院に向かいました。

私の夫は、天然痘の根絶のため、デリーからラクナウ（インド北部の都市）に WHO（世界保健機関）の任務で行っていました。夫はラクナウのラーマクリシュナ・マート（僧団）に滞在していました。事故の知らせを聞いて、夫は大急ぎで次の日にバンガロールにかけつけました。しかしながら、私は病院に入院してからひどいめまいと見当識障害に苦しみ始めました。床が天井扇風機のように回転しているのを感じ、とても悪い状態でした！ その翌日、医者は私のめまいを治療できないので、NIMHNS（国立精神神経保険研究所）の専門名医の治療が必要だと告げました。

それで、NIMHANS（国立精神神経保険研究所）の所長であり、夫の友人であるマニ医師が私を診るために来ました。マニ医師の診断では、私には脳手術が必要とのことでした。ここで私は平静を失い、とても恐ろしくなりました。私はマニ医師に手術を受けたくないと告げました。先ず経口薬を試して、仮にその薬が効かない場合はそれが神のご意志と認めて手術を受けるけれども、それまでは手術は受けたくないと伝えました。夫は私が名医の意見に反することに悩みました。

しかし、夫はチェンナイ在住の一流の神経科医である義理の兄弟にアドバイスをもらうため電話をしました。彼は偶然、マニ医師の大学の教授でした。義理の兄弟は言いました。

「彼女（ラニ マー）の言う通りにしなさい。マニ医師に手術するのを待って、薬物治療をするようにと告げなさい」

それで、彼らは日に 3 度、私に薬草製剤を投与しましたが、手術という手段を使う前に 24 時間だけ待つと言ってくれました。

私は熱心に、スワミに手術から私を救ってくださるように祈りました。その翌日、目を覚ますとめまいがなくなっていたのです！ マニ医師がいらしたときに、そのことを報告しました。

「それは素晴らしい！ 手術は必要ありませんが、更に一か月は薬物治療を続ける必要があります」

私は喜んで応じました。他の軽傷の治療のために 3 週間を要し、その後、私は退院しました。

この間、チャンナイから私を見舞うために来てくれた義理の父、義理の母を含むすべての人が、私以上にこの事故について心配してくれました。私の方が彼らをなだめなければならなかったのです！ ラージャム（娘の義理の母）はあごの骨折以外は何も怪我



はなく、彼女も完全に回復（完治）しました。

しかしながら、孫息子は私に尋ねました。

「おばあさん、どうして神様はおばあさんが祈っていたのに守ってくださらなかったのですか？」 私は孫息子に言いました。

「ドゥルヴァ、あなたには理解できないでしょう！ 神様はお優しいのです。だからこそ、あなたの痛みのすべてを私に与えてくださったのです。もしあなたが負傷していたなら、私はひどく辛くなるからです。あなたが無傷だから、私はこの痛みを喜んで耐えることができるのです」

驚くべき恩寵！

事故後の数か月間、私は筋肉痛に苦しみました。楽な姿勢で座り、瞑想することができませんでした。私はスワミに祈りました。痛みは気にしませんでした。楽な姿勢で座り、瞑想できるよう私を祝福してくださいとスワミにお願いしました。

この後、私は夢を見ました。スワミがホーマ クンダ（護摩壇）を挟んで、僧侶と反対側にお座りになっていました。僧侶とスワミの両者はマントラを唱えながら、炎の中に供物を注ぎ込んでおられました。



スワミご自身がなぜホーマ（護摩焚きの儀式）を執り行っておられるのか不思議に思いました。スワミは私をご覧になり、おっしゃいました。

「私はあなたのために、ムルツェンジャー ヤー ホーマ（死から人を守るための犠牲の護摩焚き）を行っているのです！」

スワミの恩寵がなければ、私が死んでいたであろうことは明白でした。6か月後、私は楽に座り、瞑想ができるようになりました。

ここでのレッスンとは、スワミの恩寵はどんな人でも得られるということです。しかし、（その恩寵は）正しく生き、スワミの御教えを実践することによって獲得しなければなりません。そうしてのみスワミはあなたに神のクリパー（恩寵）を授けてくださいます。私が事故に遭うことはわかりませんでした。神の恩寵によって他の誰も傷つくことはありませんでした！ 彼らが負傷したなら悲惨なことになっていたでしょう。彼らの面倒をみてくださったのは誰なのでしょう？ 私の息子は当時、まだ結婚もしていませんでした。

スワミの圧倒的な遍在！

初期の段階では、私たちはスワミが神ご自身だということに疑いを持っていました。スワミはすべての人の最も深い部分の想いをご存知であると共に、私たちが不安を抱いていることもご存知でした。スワミは私たちにおっしゃいました。

「あなた方は疑いを持っていますね。それなら、私の遍在をテストしなければなりません。そうしてのみ私が何者であるか納得することでしょう。神のみが遍在でありえるのです」



ここに、かつて私たち全員に神の遍在を証明した出来事があります。私は子供を出産する予定の妹を助けるために、列車でデリーからカルカッタに旅をしていました。私は一人だったので、婦人車両を選んで乗車していました。列車に乗り込むと、婦人車両に乗車しているのは私一人だけでした！ そのことは気になりませんでした。しかし間もなく車掌が来ると、私が（婦人車両に）独りで見つかるのを見つけ、車両の両扉をボルトで締めるよう忠告しました。なぜなら群盗団が列車の婦人車両を襲うことで知られているムガールサライのような何か所かの危険な地域を列車が通過するからでした。

その車両には2つの重い鉄製の扉があり、それぞれに3つの掛け金が掛けられていました。1つ目の扉の3つの掛け金をすべて掛けて締めました。しかし困ったことに、2つ目の重い鉄の扉の掛け金の配列がずれていて掛けられなくなっており、動きが取れない状態でした。私は蹴ったり、押したり、できることはすべてし尽くしましたが、扉はびくともしませんでした。ですから、きちんと掛け金が掛かる可能性はありませんでした。

そして、私は神の遍在をテストするというスワミのご指示を思い出しました。私は車両に座り、目を閉じて、スワミに私の苦しい思いを示し、マントラを唱え始めました。少しすると、ドスンという鈍いドアの音に続いて、柔らかいヒューッと鳴る音を聞きました！ これはスワミが私の祈りに応えてくださっているに違いないと自分自身に言い聞かせました！ 私が扉の方に歩いて行くと、驚いたことに、先ほどまで配列がずれていた同じ扉の掛け金が一直線になり、完全な場所に掛けられていたのです！

この体験に私は茫然とし、同時に身に染みて感動しました。スワミのお身体がおわすところから遠く離れた場所で、スワミの遍在の十分な証拠を受け取りました。私は一晩中眠ることができませんでした。私はデリー駅のプラットフォームで友人や姉妹に会う

と、すぐに自分の体験を止めどもなく話し出しました！

私は毎日、数回、スワミの遍在を感じる出来事があります。

ヴィブーティー – パワフルな万能薬

私には偉大なるシヴァ神の帰依者であるヒマット ラーオというコック（料理人）がおり、幸運でした。ヒマット ラーオは 40 歳で、彼の妻は 30 歳代でしたが、この夫婦には子供がいませんでした。夫婦はあらゆる薬を服用し、寺院、医者と彼らが（子供が授かるように）思いつくことはどんなことでも試みていましたが、成功せず苦しんでいました。ヒマット ラーオは私に助けを求めました。私の夫が医者であったため、私は彼の妻を検診するように手配しましたが、夫婦には何も悪いところはみつかりませんでした。彼（ヒマット ラーオ）は、私がスワミに祈るのを見て、スワミが私のグルであることを知っていました。しかし、彼はそれまで身体的にババを見たことはありませんでした。

ラーオに対する私の助言は、彼の妻が毎朝、毎晩、グラスに 1 杯、ヴィブーティー入りの水を飲み、夫婦共々、子供ができるようスワミに祈ることでした。私はまた彼らに、この願いが叶うためにどれだけの時間が必要しようとも信じることを諦めてはいけない、そして忍耐を持って祈り続けなければならない、ということを手伝いました。数か月後、彼女は妊娠し、男の赤ちゃんが誕生しました！ この子供の後で、2 年の間を置いて更に 5 人の男の子を授かりました！ 言うまでもなく、夫婦は大喜びでした。

ヒマット ラーオは私に、スワミに会うことができるようにプッタパーティに連れて行ってほしいと懇願しました。スワミの恩寵がそれ（彼の願い）を叶えてくださったようで、私の夫がチェンナイまで出張しなければならなくなり、夫はヒマット ラーオをバンガロールまで車で送ってくれました。当時、私は偶然いくつかの仕事のためにバンガロールに滞在していたのです。私はヒマット ラーオをプッタパーティに連れて行き、スワミの豊富な恩寵を体験した後で、遂にババのダルシャンという幸運を授かりました。

ここにヴィブーティーのパワーを示すもう一つの事例があります。私には 20 代後半の若いメイドの使用人がいました。彼女の夫は 10 年程前に失踪していました。ある日、彼は帰宅せず、（その後の）彼の手掛かりはありませんでした。メイドはこのことで非常に悩んで、私に助けと求めました。私は彼女に、スワミのヴィブーティー入りの水を毎日飲んで、彼女の夫が戻ってくるように、祝福してくださるよう祈ることを助言しました。メイドは数か月間、祈り続けました。ある日、誰かが彼女の部屋のドアをノックしました。彼女がドアを開けると、そこには長年失踪していた夫がいたのです！ 彼は妻を置き去りにして大変悪いことをしたこと、そして永遠に戻ってきたことを話しました。私も彼女のために祈っていましたが、この出来事には唖然としました！ これは、スワミに不

可能なことは何もないことを証明したもうひとつの出来事です。

ヴィブーティは、信仰によって定期的に服用することで、単に身体的にだけではなく、精神疾患など、まさにあらゆる病を治療します。私が若いころ、スワミが私にヴィブーティを服用するよう助言された、いくつかの問題(病)がありました。これ(ヴィブーティ)は私を治療してくれました。今日まで、日常のちょっとした病の私の万能薬としてヴィブーティ水を1瓶、常に持ち続けています。

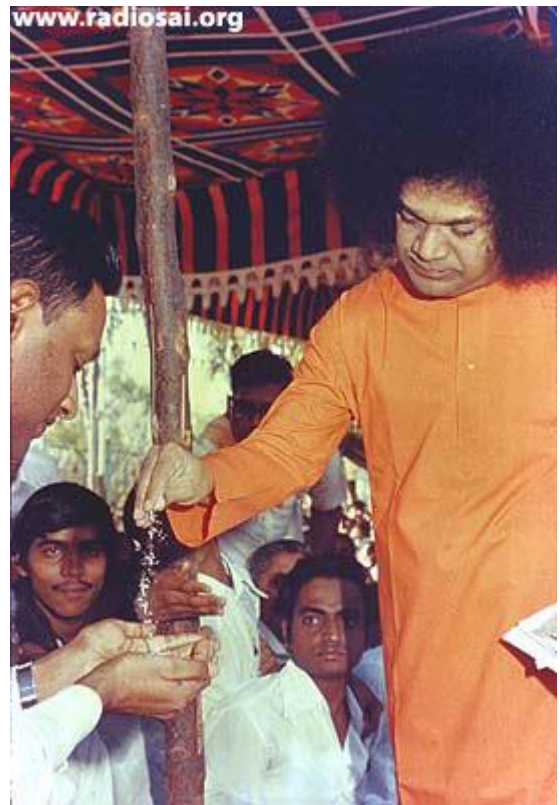
私が記憶しているヴィブーティのパワーを体験したもうひとつの出来事があります。チェンナイで、私には20代後半の若い隣人がいました。彼女とは当時、ただの知り合い程度のお付き合いでした。ある日、彼女は私に家に来てほしいと頼んできました。私は彼女のことをほとんど知らなかったのが驚きましたが、いずれにせよ彼女の家に行きました。彼女は私に言いました。

「私はシルティ ババの帰依者です。あなたがサティヤ サイババの帰依者だということは理解しています。彼ら(シルティ ババとサティヤ サイババ)は、同じだと聞きました。私にあなたの体験を話して頂けますか？」

私は1時間彼女と過ごして、私の幾つかの体験を話しました。

数日後、私は自宅の玄関にその隣人を見つけて驚きました。祈りの最中に、(内なる)声が私と話すように指示したと彼女は言いました。その隣人はまた、私の夕方の祈りに加わることはできないか尋ねてきました。私は通常祈りは一人で行ないますので、そのような(他の人と一緒に祈る)ことはしませんが、言いました。しかし、彼女は私に(一緒に祈るように)頼むよう導かれていたので、私のほうが同意しないと自分勝手なことになります。そのときから毎日、雨の日も、晴れの日も、定時になると隣人は私の自宅を訪れました。

彼女は質問をして、私はバガヴァッド ギターとスワミの御教えをもとに、それらの質問に答えました。後に、彼女がチェンナイの警察監査官の妻で、彼女の夫が数年前に心臓発作で亡くなっていたことを知りました。彼女には3人の幼い子供たちがいて、とても悩み苦しんでいました。彼女は夜眠ることができず、医者は彼女に睡眠薬を処方していました。私は彼女に、薬物中毒になるかもしれないから、睡眠薬を服用するのは止めるように助言しました。おそらく、これがスワミの御慈悲により、彼女が私に会いに会



うように促した理由だったのでしょ。

私は彼女に、毎晩ヴィブーティ水を飲み、睡眠薬を服用することなく眠ることができるように恩寵を与えてくださいとスワミに祈るよう助言しました。それが何週間、何か月かかろうとも、断固として睡眠薬を服用することを止めることに、忍耐強くなるようお願いしました。

「肯定的になり、あなたのマントラを唱え続けてください。『あなたが私に眠って欲しくないのでしたら、私は喜んであなたの御名を唱えることに時間を費やします』と、スワミに言いなさい！」

数か月の内に彼女は睡眠薬がなくても眠れるようになり、今日までそのような状態を維持し続けています。彼女は今 60 歳以上です。彼女は毎月私に電話をかけてきますが、その体験をまだ覚えています。

肯定的に考え、信仰を持たなければなりません。信仰はとてもパワフルです。スワミは助けてくださいますが、スワミへの信仰を持たなければなりません。

私は（次のマントラの）吟唱と共に（私のお話を）終えさせていただきます。

オーム マンガラム、オームカーラ マンガラム、グル マンガラム、グルパーラ マンガラム

（オーム、原初音は吉兆、グルは吉兆、神の御足は吉兆）

ラーム ナーム ジャパ ナーリー

（ラーマ神の御名を唱えましょう）

ラーマ ナーマ ジャパ ナーリー (3)

（ラーマ神の御名を繰り返し唱えましょう）

ジャブ タブ シュワス ラヘー タヌー ビータール (2)

（あなたの身体において呼吸がある限り）

タブ タク ヤハー ジャガ アパナーレ

（それまで、この世はあなたのもの）

ラーマ ナーマ ジャパ ナーリー (2)

（ラーマ神の御名を唱えましょう）

マーター ピター スター バンダヴァ ナーリー (2)

（すべての親族、親戚、母、父、友人は）

ジョーティ ジャガット カルパナ サーリー (2)

（すべて非真なり；それらはすべて単なる想像）

アーキール ヤハー ジャガ サパナーレ (2)

（この世はしよせん夢）

ラーム ナーム ジャパ ナーリー (2)

（ラーマ神の御名を唱えましょう）

シュリ ラーマ ジャヤ ラーム、ジャヤ ジャヤ ジャヤ ラーム (2)

(主なるラーマ神の勝利、ラーマの御名を唱えましょう)

オーム シュリ ラーム、ジャヤ ラーム、ジャヤ サイ ラーム

(サイの御名を唱え、神の御名を唱えましょう)

オーム シャーンティ シャーンティ シャーンティ

(平安でありなさい！ 平安でありなさい！ 平安でありなさい！)

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01DEC08/14-h2h_special.htm